



追悼 湯浅先生を偲ぶ

人体科学会の創設者であり、
元会長の湯浅泰雄先生が
昨年十一月九日逝去されました。
ここに慎んで哀悼の意を捧げます。

人体科学会創設のころ

NPO 天眞会代表

青木宏之

人体科学会創設者でありまた日本を代表する心理学者であり哲学者でもある湯浅泰雄先生ほどの方を失い、ただただ哀惜の念でいっぱいである。

人体科学会創設のさい、湯浅泰雄・門脇佳吉両先生より日本で「からだどこころを科学する学会」を立ち上げたいのだが協力してほしいと言われ、私も仲間に加えていただいた。そしてボディアーテイストの立場から学会創設にいろいろと協力させていただくことになった。この時、湯浅・門脇両先生の強い願いは何としてもソニーの井深氏のご協力を取り付けたということであった。しかしどうしてもだめでねえ、とぼやいておられた。

「筑波国際シンポジウム」以来私

は、井深氏や稲盛和夫氏と大変親しくお付き合いさせていただいていたが、井深氏のお宅にはおそらく丸山敏秋氏に次いで入り浸っていたのではないかと思う。

そこで私に相談を持ちかけられたのだろう。私はしばしば井深氏のお宅に参上して氏のお体の調整をしたり、終わると食事をごちそうになるなどしていたからである。しかし私は秘書室よりいくら遊びに行っていたとしても結構だが仕事に関するものは一切持ち込まないでほしいと堅く釘を刺されていたのである。

そのため湯浅・門脇両先生のため願うといえ私は困ってしまった。そこで一計を案じたのである。井深氏宅でお話をしていたとき、井深氏がちよつと席を外さ

れたので、やおら用意していた人体科学会のポスターを広げて見始めたのである。そして井深氏が部屋に戻って来られたとき、急いでそのポスターを片付けるふりをした。すると井深氏は目ざとくそれを見、「なんだね、それは。ちょっと見せてくれよ。」ということになった。「私は今こういうこともしていますが、仕事のことに関しては秘書課に釘を刺されておりますから」としまふりをした。

しかし、それでも井深氏は「そんなことはかまわないよ。ちょっと見せてくれよ」と迫ってこられた。氏は見終わるなりすぐさま秘書課に電話し「その日は人体科学

会に行くから他のスケジュールをすべてキャンセルしてくれ」ということになったのである。私は内心「やったあ」と思った。

そして当日、早稲田の井深大記念ホールに来てくださり、多額の寄付までしてくださったのである。湯浅先生の喜び方はもう一入であった。

その後、私は秘書の倉田裕子女士に会うたびに、心の中で「ごめんなさ〜い」と手を合わせていた次第である。

湯浅先生との思い出は「筑波国際シンポジウム」を始めいろいろと尽きない。ただただご冥福を祈るのみである。

湯浅先生との出会い

東京大学名誉教授 大井 玄

湯浅先生に初めてお目にかかってからもう十年以上たった。当時

私は東大医学部に勤めていたが、御著書『ユングと東洋』を読んで

感激し、あつかましくも町田の先生のお宅に押しかけていった。禅のこと、見性体験のことなど長時間お話を伺った。先生はあの温顔で、ご自分が見性体験をされたこととはないこと、玉城康四郎さんの見性体験のことなど話されたが、『ユングと東洋』はすこしも売れていないとおっしゃった。

医学を学んだにもかかわらず、魂・心の問題は若いときの私には不可解だった。精神的発達が遅れていたためだろう。精神科の授業はほとんど出席しなかった事実からもそれがうかがわれる。しかし紆余曲折の前半から中年以降臨床医としてがんや認知症などの終末期にある人々を診るようになると、どうしても意識・無意識・霊性といった側面が兼ね具わった「働き」を考えざるを得なくなった。治療不能な進行がんの患者のQOLがなぜ健康人のそれに匹敵するほど良く保たれるのか。そんな素朴な疑問を抱く者にとって、先生の身心論は暗闇の中の一条の光だった。

先生は、私という歳ばかりとって哲学の素養のない弟子に対し、全く無学を感じさせない態度で接してくださいました。私が「痴呆の哲学」を上梓したとき、先生がくださった暖かいそして適確なお手紙は忘れえぬものである。拙著の論旨の一つは、痴呆状態は競争社会では極度に忌み嫌われ、怖れられるというもので、私は競争社会の典型としてアメリカを挙げた。先生は、それに対しユングのコメントを教えてくださいました。ユングはその訪米時にアメリカ人の人格的心理特性を「表面における上品さ（ブルーデンス）の下に野獣性（ブルタリテイ）を具えた二重構造がある」と指摘した。人格の基礎にある野獣性とは、他者を競争相手とみなし、戦う心理であり、表面の上品さとは言葉による表現のことである。ユングはこの意識と無意識の乖離状態がアメリカを「神経症の王国」にしていると指摘しているが、彼らが痴呆を怖れる理由も一つはここにある。